



# 第102回 日本陸上競技選手権大会(山口)

アジアで勝負して、  
世界に行く

男子200mで飯塚翔太選手（ミズノ、藤枝明誠高出）が貫禄の走り。隣のレーンの桐生選手（日本生命）らが序盤から飛ばず展開にも動じない。直線でぐいぐいと加速し、2年ぶりの王座に返り咲いた。



## 静岡 陸協 会報

第 24 号 (2018年 9月25日発行)  
一般財団法人  
静岡陸上競技協会  
〒420-8508  
静岡市葵区鷹匠 1-14-31  
吉野寿ビル 2 F  
TEL・FAX 054-253-9801

今季自己最高の60m79  
女子やり投げの斉藤真理菜選手（スズキ浜松AC）



## 6連覇は当たり前!



男子800mの川元奨選手（スズキ浜松AC）



男子やり投げで5連覇  
新井涼平選手（スズキ浜松AC）



女子七種競技、5836点で初優勝！  
山崎有紀選手（スズキ浜松AC）

写真提供 陸上競技マガジン



静岡陸上競技協会会長  
北澤晴樹

### ご挨拶

静岡陸協会長就任二年目になりました。この一年間、皆様に支えられて何とか無事に乗り切ることが出来ました。有難うございます。二年目も皆様のご協力・ご支援を宜しくお願いいたします。さて、東京オリンピックまであと二年を切り、オリンピック・ムードも盛り上がりを見せてきています。是非、静岡県出身のアスリートの活躍を期待したいものです。八月に三重・伊勢市で猛暑の中行われた全国高校総体の陸上競技では男子二〇〇m、女子走り高跳びで優勝、男子一〇〇mHで2位などを始め優秀な成績を収めました。

二〇一九、二〇二〇年インターハイも期待がもてると思います。ところで二〇二〇年のインターハイは北関東地区で行われる予定でしたが、東京オリ・パラの影響で陸上競技始めとして19競技の開催が宙に浮いてしまいました。理由は宿泊設備などが用意できないと言うものです。陸上競技に付いては財政的な問題もあり当初、47都道府県どの県も引き受けは厳しい状況でした。

しかし、インターハイは高校生アスリートにとっては最高峰の大会であり、大目標でもあります。静岡県でも始めはオリンピックの自転車競技が県内で開催

されることや全中の競技も県内で行われることからインターハイの県内実施には消極的でした。しかし県高体連や関係団体の努力もあり、県も最終的に理解を示してくれて県内開催にこぎつけることが出来ました。「高校生の夢」を地元静岡県で実現することが出来て関係者・関係団体に感謝します。

二〇二〇年八月中旬にエコパで開催されることになりましたが、静岡陸協も東部・中部・西部陸協チカラを合わせて「高校生の夢」を実現して行きたいと思えます。皆様の全面的な協力をお願いいたします。

また、静岡陸協ではこの秋から陸上競技の「普及・振興に関わる新規事業」を立ち上げることにしています。この計画は公益財団法人 鈴木道雄記念財団から資金援助を受け、指導者育成や児童対象の新規事業を開催するものです。近年、全国の小中学校では陸上競技の指導者が不足しており、また部活動の減少も問題となっています。静岡県の陸上競技界でも喫緊の課題となっています。こうした課題解決のためには児童の成長に応じた指導が出来る指導者を育成し、部活動を活性化させて陸上競技の裾野を拡大させる必要があります。また、児童らに特定の種目に特化することなく「走・跳・投」の多種目に挑戦させ運動能力を向上させる「混成大会」の開催も考えて行きます。こうした新しい取り組みを行うことで児童らの陸上競技に対する環境を整え、将来のアスリートを育てて行きたいと思っておりますので皆様のご理解と更なる御協力をお願いいたします。

## 静岡陸上競技協会顕彰受賞者

### 功労者表彰

- 芹澤ちか子
- 出羽 正実
- 山下日出男
- 植田 浩己
- 横山 邦宏
- 伊藤 悦禪

### 優秀選手表彰

- 遠山 亮太(クラーク浜松)
- 全国高校定時制一〇〇m優勝
- 二〇〇m優勝
- 細川 陸 (沼津第五)
- 全国中学 八〇〇m優勝
- 太田 蒼翔(磐田竜翔)
- 全国中学 走り高 優勝
- ジュニアオリンピックA 走り高 優勝
- 鈴木 潤壹(浜松天竜)
- ジュニアオリンピックABC
- 円盤投 優勝(県中学新)
- 細谷 愛子(静岡東)
- ジュニアオリンピックC 八〇〇m優勝

### 中学生、高校生 優秀選手賞

- 太田 蒼翔 (磐田市立竜洋中学校)
- 高木 悠圭 (東海大学付属静岡翔洋高等学校)

### 日本陸上競技連盟 S級審判委嘱者

- 山本 晴久(静岡市)
- 森 深(富士宮市)
- 西尾 誠(伊豆の国市)



- 森 好美(富士宮市)
- 大野 昌俊(静岡市)
- 田中 茂(静岡市)
- 伊藤 悦禪(浜松市)
- 鈴木 満也(湖西市)
- 松井 泰子(浜松市)

### 静岡県選手権

男子五〇〇〇m競歩は池田向希選手（東洋大、浜松日体）、男子二〇〇mでは飯塚拓巳選手（中央大、藤枝明誠）が頂点に立った。

女子二〇〇mでは渡辺ひかる選手（駿河台大、富士市立）が4連覇を達成し、一〇〇m、四〇〇mリレーとあわせて三冠を果たした。

男子四〇〇mリレーでは男子は静岡大、女子は駿河台大がともに大会新の好記録で優勝を飾った。



男子一〇〇mでは鈴木涼太選手（城西大、浜松工）が大会新で優勝。男子棒高跳びはアジア

大会日本代表の竹川倅生選手（法大、富士宮北）が制した。

男子一〇mHは飯塚魁晟選手（日大三島）が大会新、県高校

新で優勝。女子四〇〇mでは松本奈菜子選手（筑波大、浜松市立）が大会新で優勝、一六〇〇mリレーは男女とも駿河台大が制した。



### 外国人アスリートにインタビュー！



静岡国際男子200m連覇  
アメリカのマクリン選手

A Q 今日のリレーはどうでしたか  
今年もすばらしいレースで2連覇できました

A Q 海外レースに参加するのは、私にとっても重要です  
静岡県の印象はどうですか

A Q 美しい街ですね！ホテルもきれいで、サービスも最高です  
静岡でなにを食いましたか

A Q なんでもおいしいです。白いごはんも緑茶が大好きなんです！  
今朝も緑茶を飲んで、いいレースができました。

A Q 静岡の中高生アスリートにメッセージを  
を

A Q Keep Working Hard! (目標を持って努力を続けて！)

A Q 将来メダルをとれるような選手が出るのを楽しみにしています！

# 34th Shizuoka International Athletic Meeting 静岡国際陸上

第34回静岡国際陸上大会が5月3日、エコパスタジアムで行われた。

男子二〇〇mではショーンマクリン選手（アメリカ）が20秒70で連覇。原翔太選手（スズキ）が20秒75で2位、桐生祥秀選手（日本生命）が21秒13で5位に入った。



女子二〇〇mでは、福島千里選手（セイコー）が連覇し、渡辺ひかる選手（駿河台大）が24秒09で5位に食い込んだ。川田朱夏選手（東大阪大）は四〇〇mと八〇〇mで2冠を果たした。  
男子八〇〇mでは川本奨選手（スズキ）が1分48秒00で3位、男子ハンマー投げの植松直紀選手（スズキ）は65m89で7位だった。

## 桐生祥秀選手 静岡国際200m決勝後のコメント



今日のレースは、自分としてはいまひとつというところでした。  
日本生命入社後の初レースということで、活躍しなかったという気持ちも強かったのですが、すこし残念です。  
決勝では、前半に上げていけるところまで走ろう！というつもりで走りました。去年のレースから間があったので、試合感を出したいと思っていました。人前で走ることがとても大事ですね。  
これからは海外レースに積極的に参加して、一〇〇だけでなく二〇〇も出たいですね。今シーズンは筋力アップを目指しています。その筋力とタイミングがストライドにあってくる走りを目指しています。

### 〔編集〕

県陸協広報委員会・県陸協事務局  
水谷陽介（編集・文責）  
橋本美智夫（編集委員）  
写真（陸協報道 太多和幸二）  
（印刷・大日三協株）